

加茂の産業といえば、明治・大正・昭和中期までは、筆筒、建具、織物が中心でありました。私の祖父である小野塚伝次郎が織物を手掛けていたらしいのですが、反物（織物）には、ラベルが必ず貼られている。そこで印刷を始めてみようと考えたのが、はじまりと聞かされておりました。定かではありませんが、それが創業で明治36年であったようです。

な石の上に、逆文字や絵を書いたり、転写して版を作る）で、ラベルを作ることから始まりました。その後は、木版印刷・活版印刷、そして戦後になるとオフセット印刷機を導入。酒瓶ラベルや、包装紙、新聞、靴函、カレンダー、帳票伝票、名刺、ハガキ、賞状等々、紙に関する印刷は全て受けるようになったようです。しかし、印刷機械の進歩は早くから自動化が進み、スピードと大量生産

株式会社 小野塚印刷所
社長 小野塚 荘一



の時代に入りました。それに伴い、製版技術も手作業より機械化され、価格競争が始まりました。業界では、過大投資による倒産も多く出ました。当社の兄弟会社も同様の憂き目に合いました。現在はIT時代になり、パソコン、カラープリンター、コピー機等の性能も良くなり、その上ペーパーレス化が進み、カタログやパンフレット等は、

タブレット持参で説明が出来るようになりました。私達印刷業界にとっては大変革の時代です。大日本印刷、凸版印刷と、日本のトップの会社でも今は、本来の事業以外の仕事で半分以上を占めています。当社でも同様に生き残りを賭けて計画しているところです。今では、オンデマンド印刷機、大型プリンターを設置し、小ロット、短期納品印刷を特徴とし、また、印刷に関する品物には、何でも対応することを基本に頑張っております。私は、当社の社長としては4代目と6代目の2回経歴者です。年齢も高齢ですので、近年中には社長交代をする予定です。100年企業としては、相応しくない文面となりましたが、お許しください。



市内事業所の
個性豊かな社長さんや
店長さんなどの意外な交友関係をご紹介します。
いつかあなたにも繋がるかも？

いいともバトン：No.42 登場の佐藤梢さん ➡ 横山満さん



左／横山満さん 右／下田近絆さん

いいとも No.44

「満天. Photo (カメラマン)」(学校町) 横山満さんの「とものわ」は「下田書道会」(幸町)の下田近絆さんです。お二人の出会いは、加茂市で開催された書道・写真・洋画のグループ展に出展したことがきっかけでした。互いの作品はもちろん、仕事に対する情熱に刺激を受け「一緒に仕事をしたい！」と意気投合。行動力のある二人は、横山さんの同級生で音楽アーティストの TAKEO WATANABE さんと下田さんのコラボイベントを開催したところ、書道と音楽の live ストリートパフォーマンスは大成功。また、二人は仕事以外でも仲良しで、横山さんのプライベートの飲み会に下田さんが参加することもあるそうです。これからも、多才なお二人の豊かな感性から生まれる『加茂発信のアート』を楽しみにしています。